



自分の考えたことを試している A 児



ゴムを長くすれば自分の手が見えないことに気付く A 児

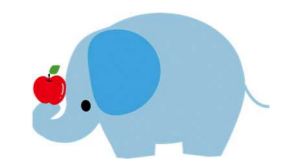


食べたはずの餌を探す A 児



足の修理を終え、象に乗る A 児

CASE 5  
5歳児



本物みたいに食べる象

(幼児の実態)

アフリカンサファリへ遠足に行つて楽しい体験をした年長児は、園で年少さんにも遊ばせてあげたいと願い、サファリを再現しようとして組んでいます。リスザルのコーナーには、耳やシッポを付けてリスザルになりきって遊ぶ子どもや、飼育員として腕章を付け、リスザルの寝床に藁(わら)を敷いている子ども。ホワイトタイガーの顔の縞模様を付けている子ども。キリンの長い首が折れてしまい修理をしている子どもなどのグループがあります。自分たちのイメージに近づけようと試したり、工夫したりする姿が随所で見られました。

協力園  
認定こども園  
ひめやま幼稚園

何度も象に乗って遊ぶうちに、足がひしゃげてしまい、A児は友だちや保育者と修理をしています。「足の手術をしてるんや」と、保育者と一緒にダンボールと堅いダンボールの芯を組み合わせて壊れないように補強しています。A児は「これで、壊れんな」と言うと、手術の出来を満足した様子で象を眺め、すぐさま象に乗りました。

そしてA児は、象の餌(どんぐり)の入っている箱を取り出し、「口から餌を入れて」と、近くにいた保育者に言いました。保育者が鼻の下にある口から餌を入れると、象に乗っているA児は、「どれどれ」と、象の口の中を手で探りました。小さなどんぐりは、なかなか手に触らず、「餌、食べたんかな?」とつぶやきました。一緒に遊んでいる友だちが、「象つち、鼻で餌を取ってたやん」と、自分のイメージを伝えます。その様子を象の餌やり後も、ずっと見守っていた保育者は、「そうだね。鼻の先で上手に取っていたね」と、サファリの象の様子を思い出させる言葉かけをしました。

やつと餌を見付けると、ひらめいたように「そうだ、鼻から食べることにする」と言った。紐を付けたらいいんや」と言い、すぐに20センチ程の平ゴムを材料置き場から探してきて鼻の先に付け、鼻をゴムで引っ張り上げるようにしました。A児が象の上でゴムの端を持って、「先生、餌を入れてみて!」と言うので、保育者は象の頭程の高さに曲がっている鼻の先から餌を入れました。しかし、ゴムが20センチしかないのに、象が餌を食べている様には見えません。保育者から「食べたのかな?」と、餌が入ったかどうかをたずねられ、ゴムを引っ張っていたA児は、しばらく黙っていましたが、何かを思いついた様子で、また材料置き場に走っていききました。

今度は、平ゴムを一巻き持つてきて、長くつなぎ、長さを調節しました。象が自分で鼻を持ち上げて食べているように表現しようとしたのです。

A児は、「先生、もう一回、餌を入れてみて」と言い、鼻から入れてもらいました。象に座ったままゴムを引っ張り、鼻は持ち上がるように見えますが、鼻の途中で止まってしまいます。餌が転がるように、引っ張り方を変えたり、餌がどこにあるか保育者に聞いて確かめたりしながら、自分のイメージ通りに食べている様子を表せるように繰り返し試していました。

園には、お米を収穫した後の藁や、園庭のどんぐり、庭の端にある数珠玉など、子どもたちがいつでも自然と出会えたり、イメージを実現できたりする環境が整備されており、子どもたちの更なる表現意欲の高まりを期待できます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 「10の姿」

思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	<b>豊かな感性と表現</b>
---------	--------------	-----------------

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友だち同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

**事例から見られる10の育ち**  
豊かな感性と表現

一緒に遊んでいる友だちから、象が餌を食べるイメージを聞くことで、新しい表現方法を取り入れ、紐を付ける・紐の長さを調節するなど、考えてはやってみることを繰り返した。

象が鼻を使って餌を食べるという心を動かす共通の体験をしたことで、本物らしい象の動きに気付き、友だちと表現方法を工夫しようとする姿になったと思われる。

**事例から見られる10の育ち**  
自然との関わり・生命尊重

田植えや稲刈りをして、副産物としての藁を使ったり、園庭のクヌギから大きなどんぐりを沢山収穫したりして、自然の変化を感じ取り、遊びの道具として大事に扱われていると思われる。自分たちの作ったダンボールの動物にも人間と同じように手術という言葉を使っていることから、まるで命があるかのように大切にしようとする気持ちになっているのではないか。

- 豊かな感性と表現を育む環境構成のポイント**
- 友だちと共通の心を動かすような体験の場(サファリ遠足)の設定。
  - いつでも自然物を遊びに取り入れられるような環境構成。(園庭に落ちているどんぐりや、稲刈り後の藁)
  - イメージを実現するための試行錯誤できるような豊富な材料準備。
  - 子どもの要求に応じた適切な援助と、子どもの表現を大事にした保育者の関わり。(遊びの見通しをもった保育者の関わり)